

2022年度 安芸高田食農プロジェクトレポート

【プロジェクトの概要】

広島県安芸高田市向原町で自然栽培の農業を営むイニアビ農園と協働し、食農体験イベント「野と家」を開催。里山の豊かな自然環境を体験しながら、自然農の魅力や課題、里山暮らしに関するお話を聞き、地元食材を使った料理や農園での収穫体験を通じて、食べる側も作る側も豊かになれる持続可能な地域づくりを考える。また、広島市立大学を卒業し、現在絵本作家として国内外で活躍するミヤタタカシさんを招いて、地域の子どもたちと一緒に「世界に一つだけの本をつくる」をテーマに製本WSも合わせて開催。昨年から続く本イベントを通じて、地球環境や飢餓といったグローバルな問題から様々な地域の課題・魅力を感じる体験をつくる。

【実施内容・方法】

- ① 食と農、里山のサステイナブルな暮らしを知る
- ② 自然農法栽培の魅力と課題を学ぶ
- ③ 農業体験
- ④ 地域の子供向けアート WS を開催
- ⑤ 地域交流イベント「野と家」を企画・実施

【プロジェクトでの成果等】

安芸高田市での取り組みについては、5年前から本学の地域志向教育の一つである「地域課題演習」の現地学習の場としてお世話になっており、地域の課題である農業の担い手不足の解消や若い世代の移住を推進するための方策として安芸高田市地域おこし協力隊と一緒にプログラムを計画・実施してきた。今回開催した食農体験イベント「野と家」では、昨年からの安芸高田市地域おこし協力隊と協働しながら、学生参加者を募りイベントを開催する計画を進めてきたが、想定していた日本人学生はわずかで、本学の国際学生寮さくらに住むアメリカやインドネシア、韓国などの外国人留学生在が興味を持ち多く参加した。

イニアビ農園は耕作放棄地を活用して無農薬・無肥料の自然栽培を夫婦で取り組み、環境への配慮や食育の大切さを広める活動をしているが、その背景には世界でおきている飢餓や土地収奪問題などのグローバルな課題意識がある。安芸高田というローカルな場において、グローバルな問題を踏まえながら学ぶことができる農園であり、2023年度も引き続き学生が地域と交流しながら、グローバルやローカルな問題を学ぶ機会を作るとともに、食と農に関わる体験型のイベントを本学の3学部の有志学生と国際学生寮さくらで生活する留学生と一緒に企画する。また、参加学生が農園内にある蔵の活用を考え、地域の方と一緒に整備をするプログラムも合わせて実施し、アートスペースやコミュニティスペース、宿泊所など複合的な場所として地域に開かれた「蔵」の活用を提案していく。



参加学生、地域住民、アーティスト、イニアビ農園集合写真



自然農法のレクチャー



収穫体験



無農薬・無肥料栽培のレクチャー

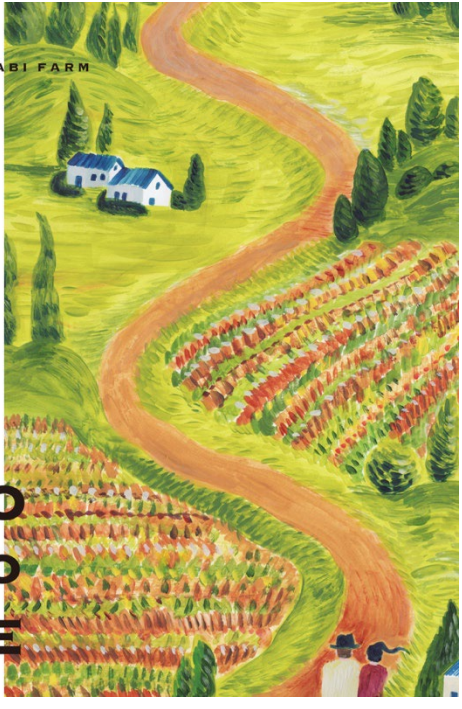


安芸高田の食材を使った食事交流会



農園の耕作放棄地の整備

NOV 10.8 AT INIABI FARM
地域展開型芸術プロジェクト
広島市立大学



N O
T O
I E
野
と
家

本学卒業生で絵本作家ミヤタタカシ氏による WS



地域の子どもたちが WS に参加



世界に一つだけの絵本を制作